

修士論文要約

# 「カット・イメージ読解法」の研究

一心にイメージした画を理解単位として活用する小説文読解指導法の特性と効果―

東京学芸大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻(教育心理学第1分野)

M97-1019 山崎 茂雄

## 《本論文の概要》

自分なりの全体理解を作り上げながら読むという内的習慣が不足がちな生徒たちに、能動的な読みの姿勢を養い、読書の楽しみを実感させたいという、国語授業における課題意識から、筆者は「カット・イメージ読解法」を創案した。本論文では、その方法論の中核にある「小説の内容をマンガや絵物語のような一連の画としてイメージし、それによって本文を分割せよ」という「カット・イメージ教示」の理解促進効果を中心に検討を行なった。

先行研究から、カット・イメージ教示は、物語スキーマによる物語理解の働きを促進するとともに、イメージ化、視点の明確化をもたらして心情理解を促すなどの働きを持つことが示唆された。

大学生を被験者とした実験Ⅰ、全日制高校生を被験者とした実験Ⅱにおいて、カット・イメージ課題を行なった群は、単純イメージ教示ののち段落分けを行なった群に比べて、理解テスト得点や遅延テストの再生場面数のほか、読後の実感評定のいくつかにおいても優れていた。とりわけ、物語文法を参照した、場面ごとの再生成績の分析により、カット・イメージ教示が物語の構造理解や人物の心情理解を促し、物語の山場を強く印象づけるという、理解促進のメカニズムを示唆する結果が得られた。これは、先行研究による考察とも一致する。

また、カット・イメージ群は本文を多く分け、段落分け群は少なく分けるという、対照的な傾向が見られ、これがカット・イメージ課題に忠実に取り組んだかどうかを見分ける指標としても有効なことが分かった。

その結果を受けて、カット・イメージ教示による継続指導の効果を調べる実験Ⅲを行なった。定時制高校の授業においてカット・イメージ課題の継続指導を行ない、読解能力の向上と、小説読書に対する内発的動機づけの改善が予想されたが、用意された尺度では、それらの変化は確認できなかった。

以上の検討により、カット・イメージ教示が小説文の理解・記憶を促進するという基本的仮説が支持されるとともに、先行研究から推測された理解促進のメカニズムを示唆する諸特性が明らかとなった。また、カット・イメージ教示を現場で活用していく際に有効な、いくつかのヒントも得られた。

## 《実験Ⅰから》 本文P19 参照

### 〈方法〉

1)被験者 男女大学生 65名

2)材 料 川西蘭『ケーキ屋』(2401字:『五〇の職場と五〇の小説』角川文庫より)

3)手続き カット・イメージ課題条件と段落分け課題条件の2つの群で、「心に映画を上映するようにイメージして読みなさい」との単純イメージ教示を等しく与えて、小説文を読ませたのち、それぞれの課題に取り組ませ、事後に内容理解テストおよび読後の実感評定に回答させた。また、50日後に内容の自由再生を求める遅延テストを行なった。

## 〈結果と考察〉

理解テストの得点、遅延テストによる場面記憶得点ともに、カット・イメージ群は、段落分け群よりも成績がよく、カット・イメージ課題が小説文の理解・記憶を促進するとの仮説は支持された。

読後の実感評定においては、6(終わりの部分がよくイメージできた)、8(登場人物の気持ちがよく分かった)の2項目においてカット・イメージ群の評定値が高く、カット・イメージの教示による作業が、これらの実感を促進することが伺える。

また、テキストをいくつに分けたかという分割数の人数分布は、両群間で対照的なカーブを描き、カット・イメージ群は多く分けようとし、段落分け群は少なく分けようとする傾向が顕著であった。内容理解においては、ある程度詳細な単位を見つけながら、それを全体の中に位置づけていくことが重要であり、カット・イメージ課題は、そのような注意深い読み取りを促す課題であると考えられる。

また、遅延テストで個々の場面がどれだけの被験者によって再生されたかという場面ごとの再生率においては、とくに物語後半の数場面において違いが見られた。そこで、テキストを物語文法によって解析し、どのような場面で差が生じているのか、分析を試みた。その結果、主人公が「テーマ」の実現から遠ざかり、「下位目標」の葛藤を抱えこんでいく場面、それが「解決」に至るカタルシスの場面、「解決」の喜びがあふれる「結末」の場面において、再生率の差が生じていることがわかった(図1参照)。これにより、カット・イメージ群においては、物語の構造的理解に加え、登場人物の心情理解が促進された結果として、場面記憶成績が向上したと推察された。この結果は、カット・イメージ教示の理解促進効果のメカニズム解明に重要な示唆を持つと考えられる。

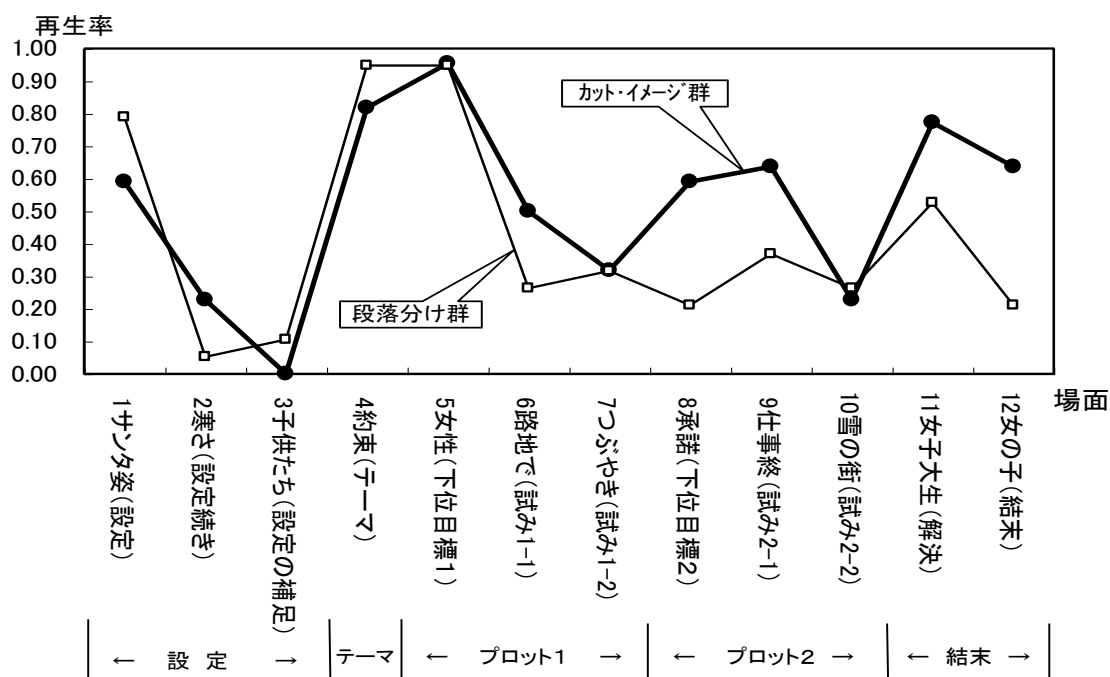


表1 実験I 遅延テストによる場面ごと再生率(物語文法による解析)

※場面8、12で有意差、場面9、11で有意傾向